

在宅看護研究センターLLPの全体像

ICUで救命された女性の家族の要請により、ボランティアで始まった訪問看護は、作家・故遠藤周作氏の後押しを受け、有限会社・在宅看護研究センターとして昭和61年3月設立された。平成元年には創業者の本来の思いに近づくために理事会を結成、任意団体に組織替えをし、その活動は平成4年の新ゴールドプランで策定された老人訪問看護事業のモデルにもなった。しかし、事業の認可は公益法人のみのため訪問看護ステーションの指定は受けられず、同年、収益部門を株式会社に、又、平成7年には看護コンサルタント株式会社を設立した。その後、民間機関にも医療保険の適用が認められ2つの訪問看護ステーションを設置し、在宅看護研究センターは2つの会社の総称としてうたわれてきた。が、「日本社会に密着した専門的な看護を広く提供できるようになるために」という当初の趣旨を鑑み、平成17年に新会社制度として誕生した有限責任事業組合（LLP）にその姿を替えて、社会に位置付き、時代に即した在宅ケアシステムの構築をめざし、更なる挑戦、共同研究開発に取り組んでいる。

事業目的

